

No. 368【2019年8月9日配信】

新町通りに現れた「街のトンネル」(担当:村上)

こんにちは。嘱託員の村上です。

今回は、市民図書館内で行っている展示「街並みからたどる戦後復興—よみがえった青森市街」(8月25日まで開催)に関する話題をお届けします。

戦後の青森市の街並みについて調べているときに「街のトンネル」という不思議な言葉を見つけました。それは青森空襲から3年が経過した昭和23年(1948)、新町通りに現れた「変りダネ」の建物に関する言葉です。

この頃、新町通りでは戦後の新しい都市計画によって道路の拡張工事が進められ、通りに面している建物を曳家工事によって後退させることになりました。しかし、コンクリート建築については曳家工事によって建物を後退させることができませんでした。

そこで、青森空襲で焼失を免れたコンクリート建築のビルを使用していた株式会社角弘銅鉄店青森支店(現株式会社角弘本社)と物品交換所(現村上新町病院附近)では、建物を後退させるのではなく建物をくり抜いて「街のトンネル」をつくることによって道路の拡張に対応することにしました。

それは、建物の通りに面した部分にトンネルをつくり、アーケードとして利用するというものでした。このアーケード部分に歩道を通すことにより、旧来の歩道を車道として利用することができるようになり、結果として建物を後退させることなく道路の拡張に対応することができたのです。

「街のトンネル」がつくられた建物のうち、角弘銅鉄店青森支店の建物は、大正11年(1922)に市内初の鉄筋コンクリート建築として建設されたもので、青森空襲で焼失を免れ、さらに翌年、県庁の火災で類焼したものの改築して使われました。昭和36年からは株式会社角弘の本店となり、昭和50年に現在の本社ビルが建設されるまで使われていたそうです。



角弘銅鉄店青森支店
(昭和30年代 歴史資料室蔵)

一方、物品交換所は、もとは太陽生命保険会社の建物でしたが、昭和 21 年、青森県物資協会が物品交換所を開設しました。物品交換所とは戦後の物資不足の時代、不要品を必要とする人へ分けるために設けられた施設で、衣類や石けんなどさまざまな日用品を扱いました。同様の施設は全国各地に「日用品交換所」などの名称で設けられており、市民の間で好評を得ていたそうです。青森市の物品交換所がいつ頃まであったのかは不明ですが、昭和 26 年にはこの建物に弘前相互銀行（現みちのく銀行）の青森支店が移転しており、昭和 33 年に建て替えられるまで使われました。



弘前相互銀行青森支店
(昭和 20 年代 『復興した 新しい青森』)



弘前相互銀行青森支店
(昭和 30 年代 歴史資料室蔵)

※今回の内容は『青森市戦災復興史』(1952 年)、『伝統と創造と開発と カクヒロ百年の歩み』(1983 年)などを参考にしました。